



人を想い、
地球を想う。

第102期 中間報告書

平成28年4月1日から平成28年9月30日まで



三ツ星ベルト株式会社

営業利益が過去最高。

継続した投資で、今後も、最高の品質の製品を提供し続けてまいります。

株主のみなさまには、平素格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

第102期第2四半期連結累計期間の概況をお届けするにあたりまして、株主のみなさまのご懇情に心から厚くお礼申し上げます。

当第2四半期連結累計期間のわが国経済は、政府や日銀による経済政策や消費税増税延期等の景気刺激策はあるものの、個人消費は依然として厳しく、また、年初から続く円高の進行により輸出企業を中心とした業績の不安定さが見られ、景気の停滞感が続きました。

一方、海外においては、米国経済は雇用や個人消費並びに企業業績も堅調に推移し、欧州においても緩やかな回復基調が見られるものの、英国のEU離脱問題による政治・経済の不安定要因を抱えています。アジアにおいては中国経済が消費・投資ともに減速傾向が続いており、その他のアジア諸国でも伸び悩み傾向が見られ、依然として先行き不透明な状況にあります。

このような環境のもと、当社グループはアジア圏を中心に販売活動を強化するとともに生産体制の再構築を推進し、経営の効率化と一層のコスト削減に取り組んでまいりました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の当社グループの業績は、売上高332億18百万円（前年同期比4.5%減）、営業利益45億13百万円（前年同期比7.2%増）、経常利益41億3百万円（前年同期比10.0%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は29億36百万円（前年同期比8.7%減）となりました。

中間配当につきましては、1株につき9円、支払開始日を平成28年12月5日と決定させていただきました。

今後の企業を取り巻く環境は、海外経済は、米国経済が雇用環境や企業業績が堅調に推移する一方、欧州では英国のEU離脱問題による下振れリスクを抱えており、また、

アジアでは依然として続く中国経済の景気減速影響により、その他諸国においても不安定な経済環境が続くと予想されます。国内では、景気回復の兆しは見られるものの、円高による輸出企業の停滞感は依然続くと見られ、加えて海外経済の不透明感により、今後も予断を許さない状況が続くものと予想されます。

このような状況のもとで、当社グループといたしましては、三ツ星ベルトグループ全体で一段と経営の効率化とコスト削減に取り組むとともに、柔軟な生産体制の確立と販売体制の強化並びに強固な財務体質づくりを推進いたします。また、次世代の産業分野のニーズに対応できる「高機能、高精度、高品質な製品づくり」を目指すため、引き続き研究開発体制の強化・充実を図り、業績の確保に努めてまいります。

株主のみなさまには、今後とも一層のご指導とご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

平成28年12月



代表取締役会長

西河 紀男



代表取締役社長

垣内 一

自動車向け発電機（オルタネータ）用プーリ
オルタダンパプーリ「Smastar™」を開発

三ツ星ベルト株式会社は、自動車用補機ベルトの関連部品として、バネ式減衰機構付きオルタネータ用プーリ オルタダンパプーリ「Smastar™」を開発し、量産納入を開始しました。金属の機能製品分野へ積極的に進出いたします。



【オルタネータに取り付けた状態】



【開発の狙い】

ベルトの張力変動を吸収するプーリとして開発しました。
張力設定を下げることができ、燃費向上が可能となります。

【特徴】

近年、エンジンはアイドルストップ、ダウンサイジング（小排気量）化、直噴化等の燃費向上技術によって、エンジンの回転変動が増加傾向にあり、補機ベルトシステムにとって、過酷な使用環境となっています。

三ツ星ベルトが開発した製品は小型であり、自動車用オルタネータのプーリで、内蔵するコイルバネにより、エンジンの回転変動を吸収する機構を持つ高性能な製品です。

その結果、ベルトからの発音の抑制、ベルト寿命の向上、さらに燃費向上にも貢献できます。

三ツ星ベルトの主力であるベルト事業に、関連部品を新たに追加することにより、システムサプライヤーとして自動車メーカーへの取り組みを強化いたします。

連結業績の概況

当第2四半期連結累計期間の当社グループの業績は、売上高332億18百万円(前年同期比4.5%減)、営業利益45億13百万円(前年同期比7.2%増)、経常利益41億3百万円(前年同期比10.0%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は29億36百万円(前年同期比8.7%減)となりました。

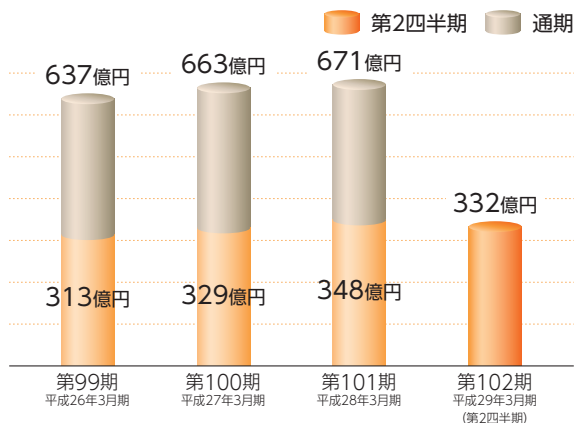
当第2四半期連結会計期間末は、有形固定資産の減少等により固定資産が8億64百万円減少したものの、現金及び

預金の増加等により流動資産が9億2百万円増加したことから、総資産は前連結会計年度末比38百万円増加の873億16百万円となりました。

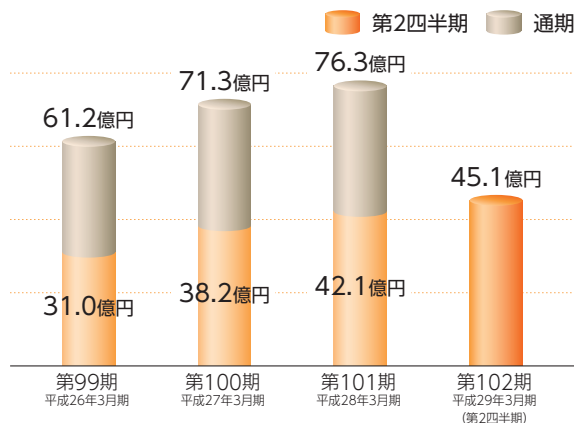
また、負債も、固定負債が9億21百万円減少したものの、流動負債が17億28百万円増加したことにより、前連結会計年度末比8億7百万円増加の283億34百万円となりました。

純資産は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上等によ

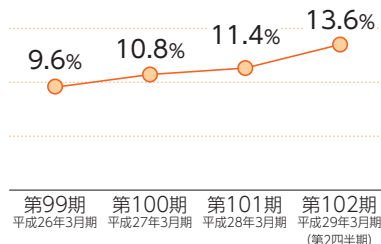
売上高



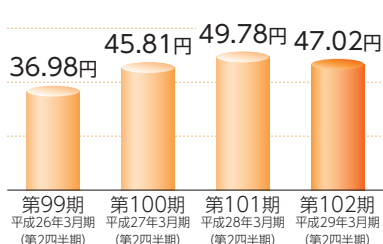
営業利益



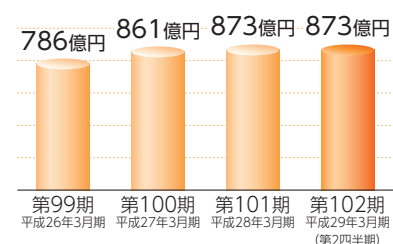
営業利益率



1株当たり四半期純利益

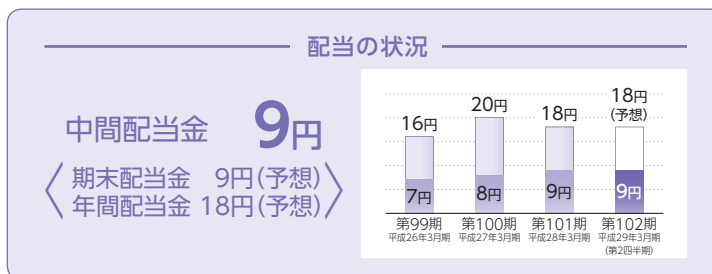


総資産

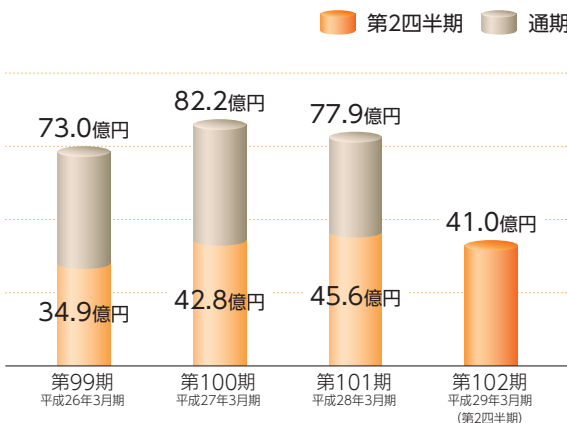


り利益剰余金が23億69百万円増加したものの、自己株式の取得8億44百万円のほか、為替の影響等によりその他の包括利益累計額が22億94百万円減少した結果、前連結会計年度末比7億69百万円減少の589億81百万円となりました。

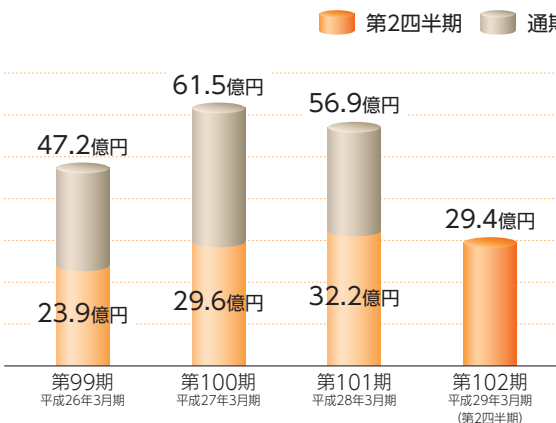
以上の結果、自己資本比率は前連結会計年度末の68.5%から67.5%に低下しました。



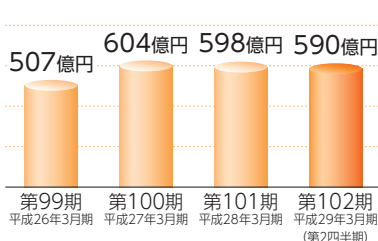
▶ 経常利益



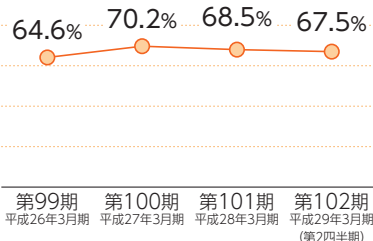
▶ 親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益



▶ 純資産



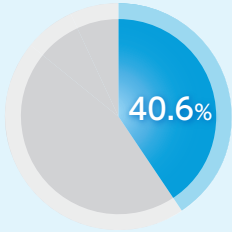

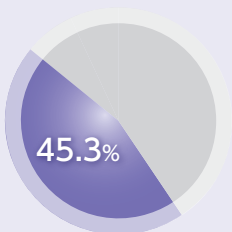

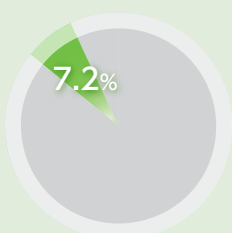

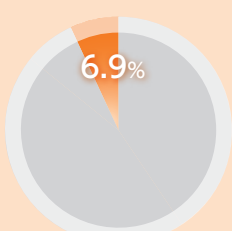
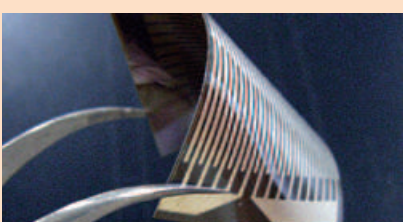
▶ 自己資本比率



平成29年3月期連結業績予想

| | |
|-----------------|-------|
| 売上高 | 660億円 |
| 営業利益 | 77億円 |
| 経常利益 | 73億円 |
| 親会社株主に帰属する当期純利益 | 64億円 |

■ 事業部門別状況

| 事業区分 | 売上高構成比 | |
|---|---|---|
| <p>国内ベルト事業</p> <p>売上高 134億88百万円</p> <p>営業利益 32億54百万円</p> |  <p>40.6%</p> |  <p>ベルト表面の離型性にすぐれた食品搬送用樹脂ベルト [ハイブリッドシリコンベルト]</p> |
| <p>海外ベルト事業</p> <p>売上高 150億63百万円</p> <p>営業利益 20億56百万円</p> |  <p>45.3%</p> |  <p>自動車補機駆動用Vリブベルト[リブスター]</p> |
| <p>建設資材事業</p> <p>売上高 23億91百万円</p> <p>営業利益 1億12百万円</p> |  <p>7.2%</p> |  <p>廃棄物処分場の「遮水シート」施工現場</p> |
| <p>その他</p> <p>売上高 22億75百万円</p> <p>営業利益 97百万円</p> |  <p>6.9%</p> |  <p>「銀ナノ粒子ペースト」で印刷されたフィルム基板</p> |

概況

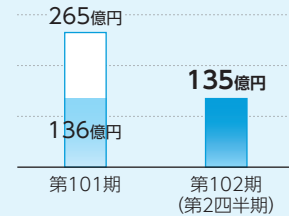
売上高の推移

自動車用ベルトは、補修用ベルトの売上高は前年同期並みに推移しましたが、組み込みライン用は、ベルト非装着車種の影響もあり微減となったことから、全体では前年同期並みで推移しました。

一般産業用ベルトは、金属製品の売上高が減少しましたが、射出成形機向け大型タイミングベルトの拡販などにより、全体では横ばいとなりました。OA機器用ベルトは、ユーザの中国市場向け機種減少影響などから、売上高は減少しました。

また、合成樹脂素材は半導体・液晶製造装置向けの販売が堅調であったものの、一部の仕入商品の販売が減少したことから、前年同期並みとなりました。搬送ベルトは食品業界向けの販売が好調に推移し、売上高が増加しました。

その結果、当事業の売上高は134億88百万円（前年同期比1.0%減）、営業利益は32億54百万円（前年同期比8.9%減）となりました。

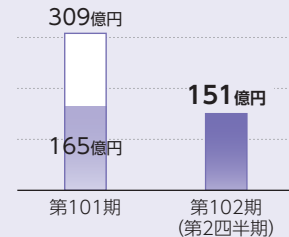


欧州では、一般産業用ベルトの売上高は前年同期と比較して微減となりましたが、自動車用ベルトは四輪車向けの販売が好調であったことから売上高が増加し、全体では前年同期並みとなりました。

米国では、自動車やスノーモービル向け補修需要の落ち込みにより、自動車用ベルトの売上高が減少しましたが、一般産業用ベルトは新規需要の獲得により売上高が好調に推移し、全体では横ばいとなりました。

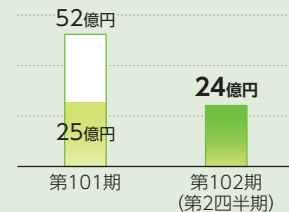
一方、アジアでは、自動車用ベルトは中国や東南アジアを中心に四輪車向けの売上高が好調を維持したことに加え、二輪車の補修需要も増加したことから、売上高が伸長しました。また、一般産業用ベルトも、中国やタイにおいて農業機械向けの販売が増加しました。OA機器用ベルトは、日系ユーザ向けを中心に前年同期並みとなりました。

その結果、当事業の売上高は現地通貨ベースでは前年同期を上回る結果となりましたが、為替が前連結会計年度より円高に推移していることにより、邦貨ベースでは減少し、売上高は150億63百万円（前年同期比8.4%減）、営業利益は20億56百万円（前年同期比19.6%増）となりました。



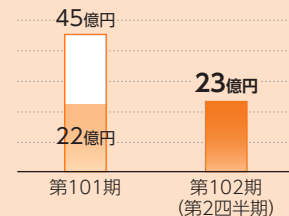
土木部門は廃棄物処分場関連の売上高が前年同期並みに推移しましたが、建築部門は建設投資が低調であったことから売上高が減少し、全体では売上高が減少しました。

その結果、当事業の売上高は23億91百万円（前年同期比4.8%減）、営業利益は1億12百万円（前年同期比167.2%増）となりました。



その他には、エンジニアリング ストラクチャル フォーム、ナノ粒子を応用した新製品、仕入商品等が含まれております。

その他の売上高は22億75百万円（前年同期比3.1%増）、営業利益は97百万円（前年同期比36.9%増）となりました。



四半期連結財務諸表

四半期連結貸借対照表の要旨

(単位：百万円)

Point 1 流動資産

流動資産は、現金及び預金が10億16百万円増加したこと等により、前期末に比べて9億2百万円増加しました。

Point 2 固定資産

固定資産は、有形固定資産の減少等により、前期末に比べて8億64百万円減少しました。

Point 3 純資産

純資産は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上等により利益剰余金が23億69百万円増加したものの、自己株式の取得8億44百万円のほか、為替の影響等によりその他の包括利益累計額が22億94百万円減少したため、前期末に比べて7億69百万円減少しました。以上の結果、自己資本比率は前期末と比較して1.0ポイント低下して67.5%となりました。

| 科目 | 前期末 平成28年 3月31日現在 | 当第2四半期末 平成28年 9月30日現在 |
|--------------------|----------------------|--------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | 55,316 | 56,218 |
| 現金及び預金 | 24,803 | 25,819 |
| 受取手形及び売掛金 | 14,146 | 14,595 |
| その他 | 16,366 | 15,804 |
| 固定資産 | 31,961 | 31,097 |
| 有形固定資産 | 20,382 | 19,835 |
| 無形固定資産 | 70 | 70 |
| 投資その他の資産 | 11,508 | 11,190 |
| 資産合計 | 87,278 | 87,316 |
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | 17,933 | 19,661 |
| 固定負債 | 9,594 | 8,673 |
| 負債合計 | 27,527 | 28,334 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | 54,001 | 55,526 |
| 資本金 | 8,150 | 8,150 |
| 資本剰余金 | 3,927 | 3,927 |
| 利益剰余金 | 45,091 | 47,460 |
| 自己株式 | △ 3,167 | △ 4,011 |
| その他の包括利益累計額 | 5,748 | 3,454 |
| 純資産合計 | 59,750 | 58,981 |
| 負債純資産合計 | 87,278 | 87,316 |

(注) 表示金額は、百万円未満を切り捨てております。

四半期連結損益計算書の要旨

(単位: 百万円)

| 科目 | 前第2四半期(累計) 平成27年4月1日から 平成27年9月30日まで | 当第2四半期(累計) 平成28年4月1日から 平成28年9月30日まで |
|------------------|---|---|
| 売上高 | 34,792 | 33,218 |
| 売上原価 | 23,769 | 22,123 |
| 販売費及び一般管理費 | 6,811 | 6,582 |
| 営業利益 | 4,210 | 4,513 |
| 営業外収益 | 547 | 424 |
| 営業外費用 | 199 | 833 |
| 経常利益 | 4,558 | 4,103 |
| 税金等調整前四半期純利益 | 4,558 | 4,103 |
| 法人税等 | 1,342 | 1,166 |
| 四半期純利益 | 3,216 | 2,936 |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益 | 3,216 | 2,936 |

(注) 表示金額は、百万円未満を切り捨てております。

▶ Point 4 売上高

売上高は、前年同期に比べて円高に推移していること等により、15億74百万円減少し、332億18百万円となりました。

▶ Point 5 営業利益

営業利益は、前年同期に比べて3億3百万円増加の45億13百万円となりました。営業利益率は、10%以上を達成しております。

▶ Point 6 親会社株主に帰属する四半期純利益

親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期に比べて2億80百万円減少の29億36百万円となりました。

▶ Point 7 四半期連結キャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、前年同期に比べて1億67百万円増加の43億65百万円の収入となりました。主な要因は、前年同期に比べて税金等調整前四半期純利益が4億55百万円減少したことに加えて、たな卸資産の増減額が8億47百万円増加したものの、仕入債務の増減額が11億87百万円増加したことによるものです。

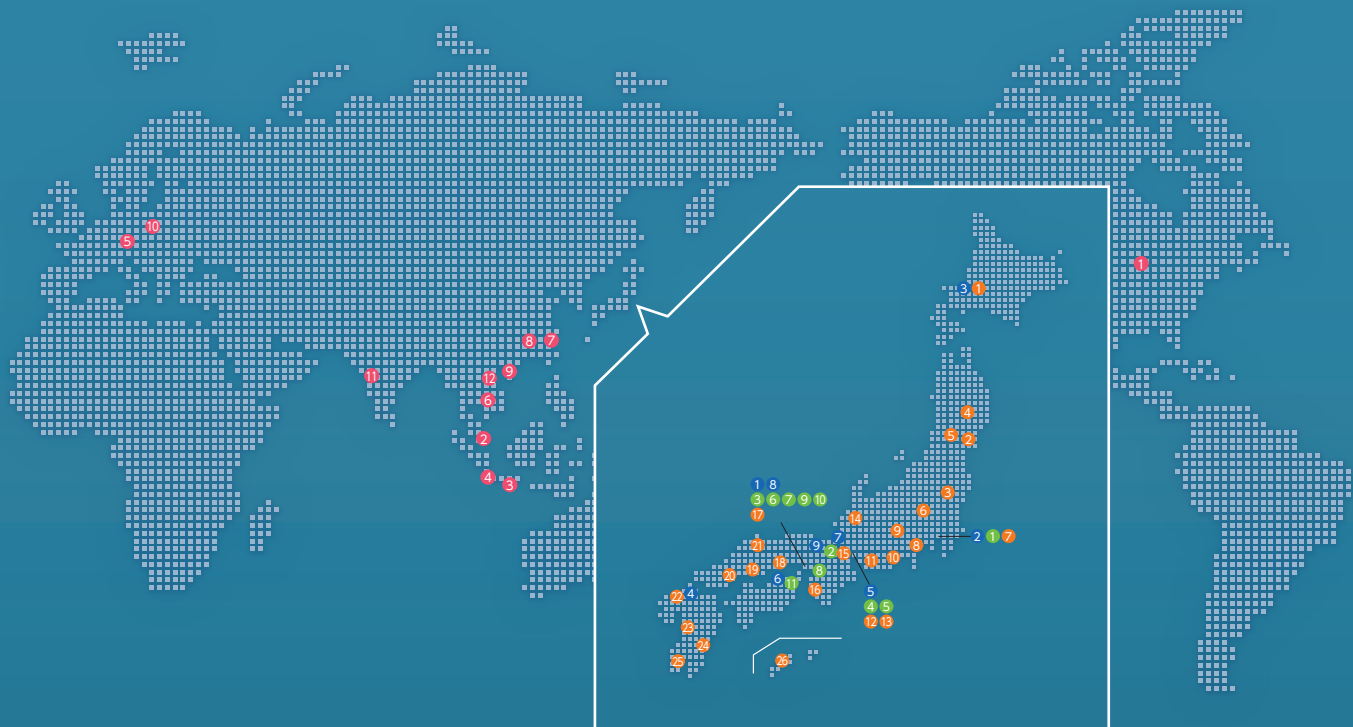
一方、財務活動によるキャッシュ・フローは、前年同期に比べて4億82百万円増加の10億75百万円の支出となりました。主な要因は、自己株式の取得による支出が8億40百万円増加したものの、短期借入金の純増減額が12億26百万円増加したことによるものです。

四半期連結キャッシュ・フロー計算書の要旨

(単位: 百万円)

| 科目 | 前第2四半期(累計) 平成27年4月1日から 平成27年9月30日まで | 当第2四半期(累計) 平成28年4月1日から 平成28年9月30日まで |
|------------------|---|---|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 4,198 | 4,365 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △ 1,805 | △ 1,122 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | △ 1,557 | △ 1,075 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | △ 228 | △ 900 |
| 現金及び現金同等物の増加額 | 607 | 1,266 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 17,979 | 24,011 |
| 現金及び現金同等物の四半期末残高 | 18,586 | 25,278 |

(注) 表示金額は、百万円未満を切り捨てております。



国内の生産・販売拠点

三ツ星ベルト株式会社

- ① 神戸本社
- ② 東京本社
- ③ 札幌営業所
- ④ 福岡営業所
- ⑤ 名古屋工場
- ⑥ 四国工場
- ⑦ 滋賀工場
- ⑧ 神戸事業所
- ⑨ 綾部事業所

三ツ星ベルトグループ会社

- ① 三ツ星ベルト販賣(株)
- ② 三ツ星コード(株)
- ③ 三ツ星ベルト工機(株)
- ④ 三ツ星ベルトコンペヤ(株)
- ⑤ 三ツ星ベルト樹脂(株)
- ⑥ 三ツ星ベルト技研(株)
- ⑦ 三ツ星物流工産(株)
- ⑧ ネオ・ルーフィング(株)
- ⑨ 神戸三ツ星サービス(株)
- ⑩ エムエムコート(株)
- ⑪ エム・ビ・エル・総合サポート(株)

三ツ星ベルト販賣株式会社

- ① 札幌営業所
- ② 仙台営業所
- ③ 郡山営業所
- ④ 盛岡営業所
- ⑤ 山形営業所
- ⑥ 北関東営業所
- ⑦ 東京営業所
- ⑧ 神奈川営業所
- ⑨ 山梨営業所
- ⑩ 静岡営業所
- ⑪ 浜松営業所
- ⑫ 名古屋営業所
- ⑬ 小牧営業所
- ⑭ 金沢営業所
- ⑮ 粟東営業所
- ⑯ 和歌山営業所
- ⑰ 神戸営業所
- ⑱ 岡山営業所
- ⑲ 福山営業所
- ⑳ 広島営業所
- ㉑ 松江営業所
- ㉒ 福岡営業所
- ㉓ 熊本営業所
- ㉔ 宮崎営業所
- ㉕ 鹿児島営業所
- ㉖ 沖縄営業所

海外の生産・販売拠点

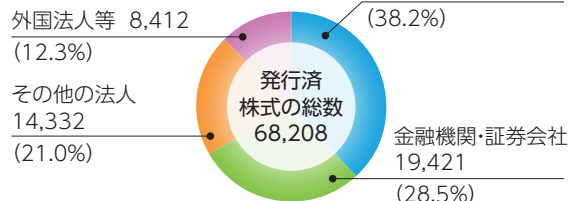
- ① MBL(USA) CORPORATION
- ② MITSUBOSHI OVERSEAS HEADQUARTERS PRIVATE LIMITED
- ③ P.T. SEIWA INDONESIA
- ④ P.T. Mitsuboshi Belting Indonesia
- ⑤ MBL Antriebstechnik Deutschland GmbH
- ⑥ Stars Technologies Industrial Limited
- ⑦ 上海共星機帶國際貿易有限公司
- ⑧ 蘇州三之星機帶科技有限公司
- ⑨ MOI TECH HONG KONG LIMITED
- ⑩ MITSUBOSHI POLAND Sp. z o.o.
- ⑪ MITSUBOSHI BELTING-INDIA PRIVATE LIMITED
- ⑫ Mitsuboshi Belting VIETNAM Co., Ltd.

株式の概況 (平成28年9月30日現在)

1. 株式

- ◇ 発行可能株式総数 325,213,000株
- ◇ 発行済株式の総数 68,208,397株
- ◇ 株主数 5,237名

◇ 所有者別状況(千株)



(注) 個人・その他には自己株式6,083千株が含まれています。

会社の概要 (平成28年9月30日現在)

- ◇ 商号 ミツ星ベルト株式会社
Mitsuboshi Belting Ltd.
- ◇ 創業 大正8年10月10日
- ◇ 設立 昭和7年10月10日
- ◇ 資本金 81億5,025万1,031円
- ◇ 従業員数 698名
- ◇ 営業品目
 - ベルト 自動車用ベルト、一般産業用ベルト、OA機器用ベルト、搬送ベルト、その他ベルト
 - 建設資材 建築用防水シート、土木用遮水シート及び関連製品
 - その他 エンジニアリング ストラクチャル フォーム、その他
- ◇ 事業場
 - 神戸本社 神戸市長田区浜添通4丁目1番21号 ☎(078)671-5071代表
 - 東京本社 東京都中央区日本橋2丁目3番4号 ☎(03)5202-2500代表
 - 札幌営業所 札幌市豊平区豊平二条3丁目1番17号 ☎(011)841-9135代表
 - 福岡営業所 福岡市博多区板付1丁目3番1号 ☎(092)441-4451代表
 - 名古屋工場 愛知県小牧市大字西之島1818番地 ☎(0568)72-4121代表
 - 四国工場 香川県さぬき市津田町津田2893番地 ☎(0879)42-3181代表
 - 滋賀工場 滋賀県高島市マキノ町寺久保100番地2 ☎(0740)27-0133代表
 - 神戸事業所 神戸市長田区浜添通4丁目1番21号 ☎(078)671-5071代表
 - 綾部事業所 京都府綾部市城山町7番1 ☎(0773)43-3051代表

2. 大株主 (上位10名)

| 株主名 | 持株数(株) | 持株比率(%) |
|----------------------|-----------|---------|
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 | 6,905,000 | 10.12 |
| トヨタ自動車株式会社 | 2,355,125 | 3.45 |
| 株式会社三菱東京UFJ銀行 | 2,340,550 | 3.43 |
| 西松建設株式会社 | 2,000,000 | 2.93 |
| 星友持株会 | 1,965,870 | 2.88 |
| 三ツ星ベルト社員持株会 | 1,531,130 | 2.24 |
| 三井物産株式会社 | 1,500,000 | 2.20 |
| 三菱UFJ信託銀行株式会社 | 1,372,164 | 2.01 |
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社 | 1,360,000 | 1.99 |
| 大同生命保険株式会社 | 1,354,000 | 1.99 |

(注) 上記のほか当社所有の自己株式6,083,947株があります。

役員 (平成28年9月30日現在)

| | | | |
|--------------------|-------|--------|------|
| 代表取締役 会長 | 西河紀男 | 常務執行役員 | 熊野格夫 |
| 取締役 副会長 | 喜田宏 | 常務執行役員 | 竹中昌弘 |
| 代表取締役社長 兼社長執行役員 | 垣内一 | 常務執行役員 | 羽村健 |
| 取締役兼 常務執行役員 | 山口良雄 | 常務執行役員 | 佐々木孝 |
| 取締役兼 常務執行役員 | 中嶋正仁 | 常務執行役員 | 増田健吉 |
| 取締役兼 常務執行役員 | 小田芳裕 | 常務執行役員 | 池田浩 |
| 取締役兼 常務執行役員 | 片山孝 | 常務執行役員 | 森野峰雄 |
| 取締役 | 宇佐美貴史 | 常務執行役員 | 又場敬司 |
| 取締役 | 宮尾龍蔵 | 執行役員 | 西河俊伸 |
| 監査役 (常勤) | 黒野正治 | 執行役員 | 陳振耀 |
| 監査役 | 奥島吉雄 | 執行役員 | 伊藤辰雄 |
| 監査役 | 橋本正幸 | 執行役員 | 倉本信二 |
| 監査役 | 大久保裕晴 | 執行役員 | 下村徹 |

(注) 1. 取締役宇佐美貴史及び宮尾龍蔵の両氏は、社外取締役です。
2. 監査役橋本正幸及び大久保裕晴の両氏は、社外監査役です。

会計監査人 新日本有限責任監査法人

株主メモ

- ◇ 事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
- ◇ 定時株主総会 6月
- ◇ 単元株式数 1,000株
- ◇ 剰余金の配当の基準日 期末配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日
- ◇ 上場金融商品取引所 東京
- ◇ 株主名簿管理人
特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社
- 同 連 絡 先 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
〒541-8502
大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
電話(通話料無料)0120-094-777
- ◇ 公 告 方 法 電子公告により行う。
公告掲載ホームページは、http://www.mitsuboshi.co.jp/japan/denshi_koukoku/index.htmlに掲載しております。
なお、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

(ご注意)

1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、左記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行本支店でもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



当社ホームページでも、最新のIR情報をご案内しております。

www.mitsuboshi.co.jp/

UD FONT



この冊子の印刷には、環境に配慮した
植物油インキを使用しています。